

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 老年看護学分野
科目コード:250001

老化過程と病態論 Pathogenesis on aging process

担当教員	北村言				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・討議
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords	加齢変化、加齢疾患、病態、観察、看護				
学習目的・目標	《学習目的・目標》 老化過程と、老年期特有の疾患、薬物が高齢者に及ぼす影響について学び、高齢者への適切なアセスメント、リスクマネジメントができる力を養う。 ・老化過程について理解できる。 ・老年疾患の病態と治療の考え方を理解できる。 ・老年期の薬物療法の特徴を理解できる。				
授業計画・内容	《授業展開の方法》 老年期に特有の疾患の病態と、検査・治療を理解するため、取り上げるテーマについて受講者で担当を割り振り、担当になったテーマについて発表を行い、それらをもとに看護におけるアセスメント、リスクマネジメントについてディスカッションする。				
回	内容			授業方法	担当
1-2	老化の概論			講義	北村言
3-8	老年期の疾患の病態・検査・治療とケア 高血圧、動脈硬化、骨粗しょう症、COPD、誤嚥性肺炎			発表・討議	
9-14	高齢者の薬物療法 薬物体内動態、効果に及ぼす要因、有害作用、服薬指導			講義・発表・討議	
15	老化過程、病態を基盤とした看護実践の意味			討議	
教科書					
参考図書等	適宜紹介する				
評価指標	発表(30%)、討議への参加度(40%)、レポート(30%) *レポート締め切りは授業最終日の2週間後とする。				
関連科目	病態生理、臨床薬理、フィジカルアセスメント、高齢者生活援助論、高齢者健康生活論				
教員から学生へのメッセージ	病態の理解を深めることで高齢者へのアセスメント、リスクマネジメントの力を高めましょう。				